

# それぞれの3.11その日から私は

東日本大震災から10年、犠牲となられた全ての尊い命に謹んで哀悼の意を表すとともに、被災され今なお復興途上の皆様へ心よりお見舞い申し上げます。

大地震は、多くの人々の命を一瞬にして奪い去るとともに、人々の生活を一変させてしまうほどの甚しいダメージを社会に与えてきました。前回の南海トラフ地震から75年余りが経過し次の巨大地震へのカウントダウンが確実に始まっている今、10年前に東日本大震災を経験した私たちは、同じ思いを二度と繰り返さぬよう、これからも弛まぬ備えが必要です。

減災連携研究センターは、東日本大震災が起きる100日前、2010年12月1日に設立され、南海トラフ地震などによる巨大災害や近年頻発している風水害に対して、産官学民の地域密着型の様々な連携により、それら被害を軽減していくための戦略について、研究、人材育成などを通じて構築していくことを目指してきました。

そこで、東日本大震災から10年の節目に、大震災を振り返り、迫りくる南海トラフ地震の備えについて考えるための特別企画展を開催いたします。また、本企画展のトピックとして、「それぞれの3.11その日から私は」と題した、当センター構成員をはじめこれまで連携してきた仲間たちによるエッセイ集を編集しました。これは、2011年3月11日14時46分、その時何をしていて何を感じどのような行動をとったか、また、その後どのような取り組みを行ってきたかなど、ひとりひとりの10年の想いを綴っていただき、そのままとりまとめたものです。災害克服の目的を同じくしてここに集った様々な立場の人々がストレートな想いを綴ったエッセイ集から、普段見ることのない別の視点で減災連携研究センターのありのままの姿を感じていただき、本企画展をご覧いただくきっかけとなれば幸いです。

